

「管理」という言葉

Essay on the word “Kanri”

杉野 隆 Takashi SUGINO
国士舘大学 情報科学センター

Center for Information Science, Kokushikan University

要旨

「管理」という言葉の由来を中国清代、日本の江戸・明治時代の文献に遡り、当時における意味を確認する。また、江戸時代に翻訳された中国の小説などを元に、「管理」の意味が変わっていないことを確認する。更に、現在において、品質管理における「管理」の意味、「管理」に対応する3つの英単語 administer, control, manage の意味の違いを調べ、PDS サイクル上にプロットすることによって、多義的な「管理」の意味の位相を明らかにする。

1 はじめに

「管理」という言葉は、毀誉褒貶が極めてはなはだしい。管理の反対語は自由といってもよいほどである。企業では管理の重要性が強調される一方で、一般社会では管理は現代社会の諸悪の根源として忌み嫌われる代表的な言葉である。社会現象としての管理は、最近になって発達し始めたわけではない。産業革命以降の近代社会に限らず、人類が農業社会に入るとともに生まれている。古代社会にも中世社会にも、その時代の社会構造に対応してそれなりに発達した管理のための政治機構、社会機構が存在していた。例えば、中国清朝では政治制度として「管理」がなされていた。本稿では、「管理」という言葉の語源、語意を調べ、情報社会と切っても切れない関係にある「管理」の持つ幅広いスペクトルを分析し、これらの様々な意味の位相を明確にしてみたい。最後に、慶応義塾大学の管理工学科とその英文表記にある Administration Engineering の関連について一考する¹⁾。

2 「管理」という漢語について

「管理」という漢語の意味、語源、用法を、2つの辞典における説明、用例をもとに公用文書、小説などを辿って調べる。

2.1 「管理」の意味、語源

諸橋の大漢和辞典（大修館書店）では、「管理」を、「つかさどりをさめる。管轄辦理する。事務を總轄して處理する。支配。取締。」と解説している。管理という漢語は、管轄辦理が略されて成立した。管轄の成り立ちを見ると、「管」は門戸を開閉するかぎであり、支配（管掌）する、拘束するといった意味を持つ。「轄」は車輪の外れるのを防ぐくさびのことである。したがって、管轄は権限によって支配することを示す（広辞苑第六版）。また、辦理は、事務を處理する（新漢語林（大修館書店）あるいは、弁別して處理することをいう（広辞苑）。また、日本国語大辞典第二版（小学館）では、「管理」の意味として、①「管轄、處理すること。取り仕切ること。とりしまり。」②「法律上、財産を保存し、また、その性質を変更しない範囲内でその利用をはかること。」③「物の状態、性質などがかわらないよう、保ち続けること。」④「事務を經營し、設備の維持、管轄にあたること。」の4つを挙げている。①は中国における意味を継承する、基本的な意味であり、②は運営に相当する意味である。③は後述する品質管理に典型的に現れており、制御、統制といった意味である。④は、組織における一般的な管理の意味であり、多元的な意味を持っている。

2.2 中国清代における用法

大漢和辞典では用例として、①欽定清會典事例卷一宗人府一天潢宗派宗室覺羅冊籍[1]にある「管_レ理宗人府王公及族長等_一」（宗人府が王侯及び族長等を管理する）、②六部成語の内、吏部成語にある「管_レ轄辦_レ理某處事務_一」（某処の事務を管轄弁理する）を挙げている[2]。用例①に挙げた清會典事例は、清朝が編纂した清朝の政治制度に関連する史書であり、王朝機構ごとに分類して、法制関連記事、政府機構の変遷を記載している。この用例の発令は乾隆 23 (1758) 年であった。用例②に挙げた『六部成語』は、清代の官庁専門用語集であり、六部（吏、戸、礼、兵、刑、工）の各部ごとに満文・漢文の公用語を収録した対訳辞書である。撰者は不明であるが、乾隆 7 (1742) 年版が初版である。『六部成語』よ

¹⁾ 小暮によれば、米国では管理工学という言葉は使われず、Industrial Engineering と呼ばれることが多いが、Industrial Administration などと呼んでいる大学もあるという[13]。ここでは、このような対応関係の検討ではなく、「管理」という言葉と Administration の関連について考察することを趣旨とする。小暮は、執筆時点には慶応の管理工学がどのように英文表記されているかについては知らないといっている。

り古い同種の対訳辞書には、『同文集』(劉順・桑格合編輯, 康熙 32 (1693) 年。約 940 語収録)『清文備考』(康熙 61 (1722) 序。約 3,400 語収録)のみがある[3]が、いずれにも「管理」は見いだせない。

日本国語大辞典では、①の意味の用例として、江戸時代の翻訳小説、明治時代の西国立志編、日本開化小史、思出の記と並んで、中国の福惠全書を挙げている。福惠全書は、17 世紀に地方と中央の官吏を務め、康熙 32 年に退職して故郷の江西省新昌県(現在の江西省宜丰县)に帰った黄六鴻が著した地方官の執務心得であり、康熙 38 (1699) 年に刊行された。ここに、「有_レ関_ニ錢糧戸上_一、須_テ照_ニ會管理幕友_一、以便_中留意_上」(錢糧(銅錢と糧穀=租税)戸上ニ関カル有レバ、須ラク管理ノ幕友ヲ照會シ以テ留意ニ便ニスベシ)という用例が示されている[4]。このことから、「管理」の使用例は、清朝初期の 1699 年までに遡れる。

2.3 江戸時代における用法

日本国語大辞典は、「油舗の生理は、丈人萃善に任せて、管理(クハンリ〈注〉シハイ)せしめけるに」[5]を用例として挙げている。この用例は、『通俗赤繩奇縁』巻之四として、宝暦 11 (1761) 年に刊行された翻訳小説集の中にある。この小説集は、明代末期(1632 年から 1644 年の明の滅亡)に、馮夢龍が宋代以来の白話(口語)小説から撰集したものの中から、姑蘇(蘇州)の抱甕老人と名乗る者が 40 編を選び集めた『今古奇観』(1632 年~1717 年に刊行)を、日本で西田維則が翻訳したものである。通俗とは翻訳を意味した。この小説は評判が良かったようであり、他にも多くの翻訳がある。睡雲庵が主訳した『通俗繡像新裁綺史』(寛政 11(1799)年)では、「油舗(アブラミセ)ノ生理(スキワイ)スヘテコレ丈人(シウト)萃善か管理(シハイ)シケルホトニ」[6]と出ている。さらに、『通俗今古奇観』(文化 11(1814)年)巻之五には、「都テ是丈人萃公管理(シハイ)ス。一年タラス内ニ家業繁盛シテ」と出ている。これら 3 例を通して、「管理」にはシハイと右ルビが振られている。もっとも、初例の『通俗赤繩奇縁』では、まず〈クハンリ〉と右ルビを振った上で、シハイと左ルビを振っている。当時の江戸では珍しい漢語であったことから注記したのではないか。その後の 2 例では単に〈シハイ〉と右ルビを振っているだけである。

2.4 明治時代における用法

日本国語大辞典における①の用例として、中村正直が訳した『西国立志論』と、日本最初の哲学辞典として欧米の人文・社会科学に関する専門用語を日本語に訳した『哲学字彙』(Dictionary of Philosophy)[7]を取り上げる。また、②の意味では、民法 25 条(1896 年)がある。

『西国立志論』(1870-71)[8]では、「管理」が 2 か所に出現する。第 1 例²はシハイ、第 2 例³はトリアツカフと、それぞれに違った左ルビが振られている。いずれも、日本国語大辞典における①の意味である。原典の Samuel Smiles の *Self Help*[9]の該当箇所にも当たっても、原文から大きく意識されており、管理に直接に対応する英単語は見当たらなかった。また、『哲学字彙』では、Administration の訳語として「管理(政=政理学)、内政」を挙げている⁴。管理は政治学用語であると注記しており、これは行政の運営と同義であろう。

以上の検討により、「管理」は 17 世紀末に成立し、日本には 18 世紀中ごろに到来した。江戸時代から明治時代には「事務を管轄し、処理する」「支配する」といった中国と同様の語意でのみ使用していたが、現在では先の四つの意味に拡大していることが分かる。

3 品質管理における「管理」

品質管理の「管理」は、control, management いずれに相当するのか。JIS Z 8141 (品質管理)では、管理に control と management の二つの英語を当てている。管理を、「経営目的に沿って、人、物、金、情報などのさまざまな資源を最適に計画し、運用し、統制する手続きおよびその活動をいう」と説明するが、これは上述の④に該当する。品質管理関連の用語辞典[10]では、「管理」についてさらに詳しく、「継続的かつ効率よく目的を達成するためのすべての活動。PDCA サイクルを持つことが前提となる。一部では、作業員などが決められた通りに仕事をしているか監視したりチェックしたりする統制という狭い意味で使う場合があるが、TQM では、上記のように広い意味で使用する。最近では、誤解を避けて、カタカナでマネジメントとすることも多い」と説明している。管理に、統制、マネジメントの 2 つの意味を当てていることになる。

品質管理の歴史をひも解くと、連合軍司令部(GHQ)は、戦後日本の、通信事情を改善するために、1946 年にアメリカの Western Electric 社から品質管理の技術者を呼び、日本の電気通信機器メーカーを対象にして統計的品質管理手法の導入を勧めた。これが日本における品質管理活動の始まりといわれる。

² 「自ら愚ナル政事ヲ以テ管理セラルルコトナリ」第一編三章 6 頁。

³ 「慇懃ニ兵卒撫養ノ事ヲ管理セシガ、夜中巡視スルトキ」第十三篇三六章 755 頁。

⁴ ちなみに、『哲学字彙』には Intelligence はあるが、Information はない。

このとき、かつて Western Electric 社の支配下にあった日本電気は、1947年2月に玉川向製造所に品質管理課を新設した。日本電気では GHQ から指導を受けた人々は、“quality control”を品質統制と訳すべきだと考えたが、この言葉は戦時の暗い印象を引きずっていた⁵ことから「品質管理」の語を作り出した。これが品質管理という用語の由来であるといわれている[11]。その結果、品質管理の分野では、control chart や control limits などほとんどの用語で control に管理が当てられることになった。quality control は、米国では統計的にバラツキをなくす（抑制する=control）ことを意味したが、日本では管理と訳され、統計的な概念は曖昧になったといえる。

4 「管理」の英単語との対応

以上の議論をもとに、管理に関連する administer, control, manage の三つの単語を取り上げ、それらの語源、意味をもとに、「管理」の多元的な意味を整理する。

『哲学字彙』では、これら三つの単語の名詞形に次の意味を付している。三つの版があるが、ここでは初版（1881年）[7]をもとに比較する。

administration 管理, 内政[国内の政治, 後宮の取締り, 家政]
 control 抑制[おさえとどめること], 拘束[行動の自由を制限し, または停止すること]
 management 處辦[処理すること], 料理[物事をうまく処理すること]

[]内に示す説明は広辞苑による。勿論、料理は食料の調理に限定されない。

それぞれの語の語源、語意を見てみよう。ジーニアス英和大辞典を参照する。

- ①administer 14世紀に初出。語源は、ラテン語の administrare であり、「ad- (…に) + minister (仕える) = (国政など)に仕える」という語が成立した。「〈人・政府などが〉(国, 市など)を(秩序整然と)治める」, 「〈会社・学校・世帯など〉を運営[管理]する」という語意である。また、「執事として切り盛りする」(serve as a steward) という語意を持つ。
- ②control 15世紀に初出。語源は、中世ラテン語 contrarotulare であり、「contra- (反対に) + -rol (転がす=roll) = (帳簿を)反対方向に転がす」, すなわち「帳簿を遡って調査する, 照合する」という意をもつ。新英和中辞典 第6版(研究社)によれば、古期フランス語の contrerolle (contre-‘contra-’+rolle ‘role’) が語源で、「(対抗手段として)登録する」の意であるという。会計監査 audit control の用例においては前者の語義が的確であるが、「支配する, 制限する」といった意味には後者が近いであろう。ちなみに、制禦という漢語は、史記の秦始皇本紀(BC 91年頃)にあり、「相手が自由勝手にするのを抑えて自分の思うように支配すること」(新漢語林)という意味である。
- ③manage 1561年に初出。語源は、ラテン語の manus (手) であり、「man- (手) + -age (行為) = 手を使うこと」, すなわち、「うまく巧みに手を扱う」, 「(馬を)手で御する」という語意が生まれた。「人が」〈(扱いにくい)人・物・事〉をうまく取り扱う。

ちなみに、運営は、「①からだの働き。また、からだの機能が働くこと。②組織や制度などを働かせること。」という意味を持つ(日本国語大辞典)。運営は和製漢語である。①は18世紀末の翻訳医学書に多く見られる用法であり、「運動營為」の略と言われるが、現在は使われない。②は「計画が如何によくても、適切に運営しないと機能を十分に発揮できない」という含意であり、用例は Montesquieu の『法の精神』の英訳版『The Spirit of Laws』から訳した『万法精理』(1875年)に見える⁶。運営は、働きを基本的な意味とするが、①からどのようにして②の意味に変化したかは不明である。

以上の検討の結果、administer, control, manage の語義の違いは次のように整理できる。また、その語義を的確に表現する部分を下線で示す。

- administer 受動的に、組織に仕え、整然と運営する。
- control 能動的、受動的いずれであれ、設定された目標が制約条件の範囲内から逸脱しないように統制する。
- manage 能動的に、困難なことを手順を踏んで巧みに料理する。

5 管理と三つの意味の位相

管理という抽象概念は、健康管理のように個人に対しても適用されるが、通常、組織体における管理サイクルを示すことが多い。経営学の管理過程論の起源は F.W. Taylor の *Shop Management* (1903)

⁵ この事情は、「情報」でも同様である。1962年に東京大学工学部に計数工学科ができたとき、情報工学科とする案もあったが、「情報」が諜報活動のイメージを引きずっていたため、採用されなかったという[14]。

⁶ 訳者である何礼之は、“during these transactions”を「此事業ヲ運営スルノ間」(巻之二十二)と訳した[15]。

に求めることができる。Taylor は、管理する者と管理される者を明確に区別し、計画 (plan) と執行 (execute) を分けること提唱した⁷。一般に管理サイクルは Plan-Do-Check-Act (PDCA) の4フェーズで構成されるが、ここでは、Taylor に従い、Check と Act をまとめて〈計画〉(Plan) - 〈執行〉(Do) - 〈統制〉(See) (PDS) の3フェーズとする。

3フェーズのうち、manage は、困難に立ち向かうために計画 plan を立て巧みに料理するというように、Plan に重点を置くが Do をもカバーする活動、control は統制 See に重点を置くが do もカバーする活動、administer は執行 Do に重点を置き、その上 Plan と control をも一部カバーする活動に対応する。さらに、現在の日本語の「管理」は PDS サイクルの全体をカバーする活動と見ることができるのではないか。この結果を図にすると右のようになる。

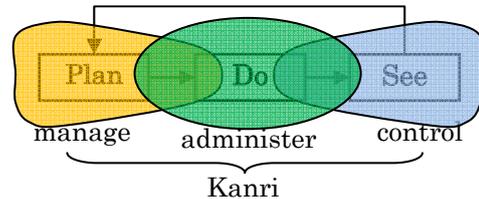


図 Kanri と administer, control, manage の関連

6 まとめ

「管理」という言葉の中国及び日本における使用起源を文献によって明確にした。また、多元的な「管理」の意味を英語の manage, administer, control の語意に従って、PDS の各フェーズにそれぞれを対応させられること、さらに「管理」は3つのフェーズ全体をカバーするものであることを示した。

慶應義塾大学工学部に管理工学科が新設されたのは1959年である。当時は、経営者の直感に頼るのではなく、科学的な考え方、方法を活用しないと企業経営が困難になると考えられ、OR やコンピュータが企業で本格的に利用され始めるころであった。管理工学科の設立に当たって、関係者たちは、単なる工学系のIEではない新しい管理工学にもとづいた新しい技術者ないし経営者の育成に強い関心があった。「ここで生み出される技術者は、工場の実際の場にあつて働きつつ、しかも広い経営的な見通しを持たねばならぬ。ここに従来の商経学部でも工学部でもみだされなかった新しい学科の役割があるといえる。」と設立趣旨にある[12]。すなわち、管理工学の英語表記として Administration を採用したことは、図における Plan, Check をも含む administer のカバー範囲に対応するものと推察する。

参考文献

(2011年11月1日に、すべてのURLの存在を確認した。)

- [1] 清會典事例宗人府天潢宗派宗室覺羅冊籍,
<http://www.qinghistory.cn/download/download.jsp?filepath=/cns/uploadfiles/zlzx/20100322065617187.pdf&filename=03%25E5%25AE%2597%25E4%25BA%25BA%25E5%25BA%259C.pdf>
- [2] 撰者不明 六部成語史部, 1742年,
http://archive.ihp.sinica.edu.tw/c4/show_word.php?sn=73
- [3] 石橋崇雄 六部「成語類」(『同文集』所収) 満洲語索引(兵部・刑部・工部)——『六部成語』総合索引への一環として——, 国士舘大学文学部人文学会紀要, 第28号, 1995年, pp.47-62
- [4] 清弁黄六鴻撰 小畑行簡訓點 福恵全書, 汲古書院, 1973年, pp.56-57
- [5] 中村幸彦編 近世白話小説翻訳集第二巻, 汲古書院, 1984年, p.125
- [6] 中村幸彦編 近世白話小説翻訳集第四巻, 汲古書院, 1985年, p.415.
- [7] 井上哲治郎他編 『哲学字彙 Dictionary of Philosophy』初版, 1881年。
http://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/bunko08/bunko08_a0163/bunko08_a0163.pdf
- [8] 原本全章のpdf版が次のサイトにある。<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~okajima/saikoku/>
- [9] 英文テキストが次のサイトにある。
http://emotionalliteracyeducation.com/classic_books_online/selfh10.htm
- [10] 吉沢正編 クオリティマネジメント用語辞典, 日本規格協会, 2004年。
- [11] 日本電気社史編纂室 日本電気株式会社百年史, 日本電気株式会社, 2001年, p.296
- [12] 慶應義塾大学藤原記念工学部管理工学科パンフレット1961年,
<http://www.ae.keio.ac.jp/new/pdf/1961.pdf>
- [13] 小暮正夫 アメリカに於ける管理工学, 管理工学科特集号, 慶大工学部新聞, 昭和34年6月14日号
<http://www.ae.keio.ac.jp/new/pdf/news1959.pdf>
- [14] 浦, 神沼, 細野, 宮川 情報システム学へのいざない—人間活動と情報技術の調和を求めて, 培風館, 1998年, p.20
- [15] 浅野敏彦 国語史のなかの漢語, 和泉書院, 1998年, p.260

⁷ execute は、〈人が〉〈命令, 計画, 作戦など〉を実行すること, という意味であり, plan に続くフェーズとしては適切な用語であるが, ここでは通例に従って Do を使用する。